

トライウォール社

中国拠点50カ所に拡大

梱包資材の供給力向上

三層段ボールを活用した梱包資材の製造、提供で知られるトライウォール社(本社「東京・千代田区」)は今後3年をめどに、中国拠点を現在の30カ所強から50カ所に拡大する方針だ。アジア全域にネットワークを張る同社は、特に成長が見込まれる中国で拠点展開を加速する。広範なネットワークを背景に、中国を含むアジア各地で、荷主企業の生産工場への梱包資材納入を迅速化。さらに梱包資材の回収・貸出拠点としても機能させ、梱包資材の片道レンタルサービス「ワンウェイレンタル」の提供を視野に入れる。渡邊正直副社長はワンウェイレンタルについて「梱包資材の引き取り、貸し出し、管理に到る諸機能を持つ拠点を中国やアジア各地に展開していることで可能になるサービス。今後、商品化して積極的に広げていきたい」と説明する。



渡邊正直副社長

トライウォール社は1974年に日米折半出資の合

弁会社として事業を開始。96年に合弁契約を解消し、独自資本での事業を開始した。今年4月には国内事業部門をトライウォールジャパンとして分社化した。日本には前橋に統括本部、大阪と名古屋に営業所があるほか、関東物流センター、近畿センター、九州センター、九州サービスセンターがある。また、国内子会社は3社(トライウォールジャパン、ウィルライフ、トライウォールロジテック)。

携会社が、国内ファブリケーター(段ボールシートを加工し梱包資材に組み上げる拠点「製函工場」として機能。顧客仕様の梱包資材の製造、納入を手がける体制をとっている。

海外には中国、東南アジア・インドの各ブロックに拠点展開。東南アジアにはタイやシンガポール、マレーシア、インドネシアが含まれる。

また、各国に現地法人がある。さらに米国や英国、イスラエル、豪州に本社を置く協力企業が「トライウォール・グループ」を形成。グローバル対応を可能としている。

現在、中国には、中国およびアジア各国向けに提供する段ボール・シート(2・5桁×5桁規模)の製造工場(貼合工場)が福州と常州にある。アジア各国の製函工場へはコンテナ詰めして海上輸送で搬入している。

同社の強みは、データ化した設計図を活用して段ボール・シートを加工、梱包資材を製造できること。顧客仕様の梱包資材を各地で即座に製造し納入できる。

製函拠点は国内外に多数展開しているため顧客の要望に応じてジャスト・イン・タイム(JIT)対応が可能だ。

能だ。

現在のブロック別の売上比率は中国4割、日本3割、東南アジア・インド3割。中国、アジア各地の拠点は製函拠点として機能するとともに、貸し出した梱包資材(リターナブルシステムに対応したユニパック)の回収拠点としても機能する。

例えば、利用者が日本から中国向けの輸送に活用したユニパックを、中国にあるトライウォールの拠点のスタッフが回収し、改めて別の利用者にレンタルすることが可能になる。

片道での利用が可能であるため、中身が空の状態でも移動することがなくなり、利用者にとってはコスト低減につながり、さらに環境にやさしい物流を構築できる。



産業用重量物梱包資材として活用される「トライウォール・パック」

日本全国の提